

# JADM NEWS LETTER

Japanese Association for Disaster Medicine

一般社団法人 日本災害医学会

## CONTENTS

学術集会ポスター.....	1	第31回日本災害医学会総会・学術集会	
第31回日本災害医学会総会・学術集会に向けて.....	2	副大会長・事務局員・プログラム企画委員紹介.....	11
学術集会概要・交通のご案内.....	3	最優秀論文賞・優秀論文賞・優秀査読者紹介.....	12
会長講演・特別講演・特別企画・教育講演.....	4	編集委員会関連：抄録など.....	12
「学会を科学する」新しい取り組み.....	6	事務局からのお知らせ.....	15
日程表.....	7	編集後記.....	16
第31回日本災害医学会総会・学術集会における 「社会医学系分野に関連する講習」について.....	10		

 **JADM** The 31st Annual Meeting of  
the Japanese Association for Disaster Medicine

災害を  
科学する

From Experience to Evidence  
in Disaster Science

第31回  
日本災害医学会  
総会・学術集会

経験を科学に—  
新潟&熊本から発信

2026  
3.19 Thu. — 3.21 Sat.

会場 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター  
TOKI MESSE NIIGATA CONVENTION CENTER

会長 高橋 昌  
新潟大学大学院医歯学総合研究科 災害医学・医療人育成分野 特任教授

副会長 笠岡 俊志 熊本大学病院 災害医療教育研究センター センター長・教授  
堂前 洋一郎 一般社団法人 新潟県医師会 会長  
塚田 芳久 新潟県厚生農業協同組合連合会 代表理事 理事長

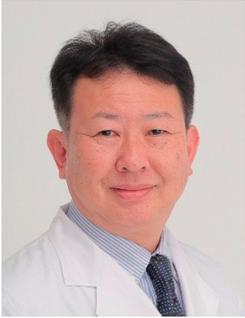
【事務局】新潟大学大学院医歯学総合研究科 災害医学・医療人育成分野  
事務局長/伊藤 宏保・中込 悠 熊本事務局長/内藤 久貴・馬渡 博志  
TEL:025-227-2033 FAX:025-227-2167 E-mail: jadm31ad@med.niigata-u.ac.jp  
〒951-8510 新潟市中央区柏町通 1-757

【運営事務局】株式会社新直 学術会議部  
TEL:025-2787-7232 FAX:025-2787-7285 E-mail: jadm31@shinsen-mc.co.jp  
〒950-0983 新潟市中央区神道寺 2-3-4

<https://shinsen-mc.co.jp/jadm31/>



## ■第31回日本災害医学会総会・学術集会に向けて



第31回日本災害医学会総会・学術集会 会長  
新潟大学大学院医歯学総合研究科 災害医学・医療人育成分野 特任教授  
**高橋 昌**

この度、2026年3月19日(木)～21日(土)の3日間にわたり、日本一の大河信濃川の河口に面する新潟市の朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター）で「災害を科学する」をメインテーマに掲げて、第31回日本災害医学会総会・学術集会を開催させていただくこととなりました。新潟県の災害医療関係者の悲願であった新潟開催の貴重な機会を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

本学会の特徴として、医学会でありながらも学会員の構成は医師だけではなく、多くの医療系職種、消防・警察関係者、栄養士、消防や行政、災害ボランティアの方々など、多職種に渡っている点が挙げられます。災害から命と健康を守る活動は、多くの人々の力によって支えられていることの表れです。また、災害医学の特徴として「予測困難であり、同じ災害は二つとしてない」ことが挙げられます。これらを背景として、災害医学は科学することが容易ではなく、時には貴重な経験が「経験談の継承」にとどまってしまう場合も少なくありません。

しかし、本学会が医学会である以上、社会医学である災害医学の研究、教育、社会実装に関わる学会員の活動を支援する学術団体であり、科学を持って社会に貢献するべきであると考えています。

災害が発生するたびに、多くの経験が積み重ねられますが、その経験を科学することで、Evidenceを積み重ね、Evidence Basedな教育（人材育成）や、社会システムへの働きかけ、資機材の開発などの研究への昇華、そして教育・研究開発の成果が次の災害で実際に適応され（社会実装）、新たな経験と検証が行われる、という社会活動と科学の有機的なサイクルの構築に注目して、今回の学術集会では議論を深めてまいりたいと思います。

2026年は熊本地震発災から10年目となります。今回、副会長を熊本大学の笠岡俊志先生にお願いし、熊本事務局も設置して、熊本地震関連セッションも多く企画する予定です。また、新潟県医師会長の堂前洋一郎先生、新潟県厚生連理事長の塚田芳久先生にも副会長をお願いし、新潟ならではの取り組みについても広く取り上げてまいります。中越地震、中越沖地震を経験した新潟と熊本地震を経験した熊本が「災害を科学する」をテーマに力を合わせて精一杯準備を進めてまいります。活発で実りある議論の場となるための企画と、新潟らしいおもてなしでお迎えいたします。歴史のある港町、新潟の地で皆様とお目にかかれまことを、心から楽しみにいたしております。

## ■学術集会概要

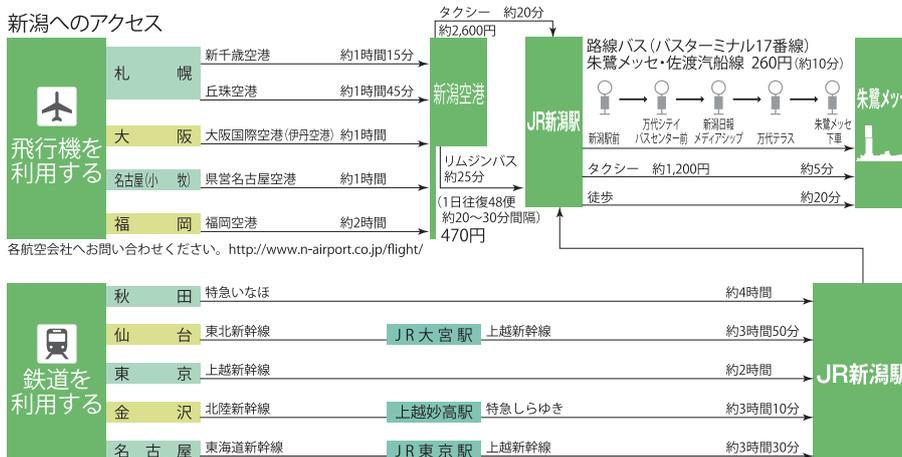
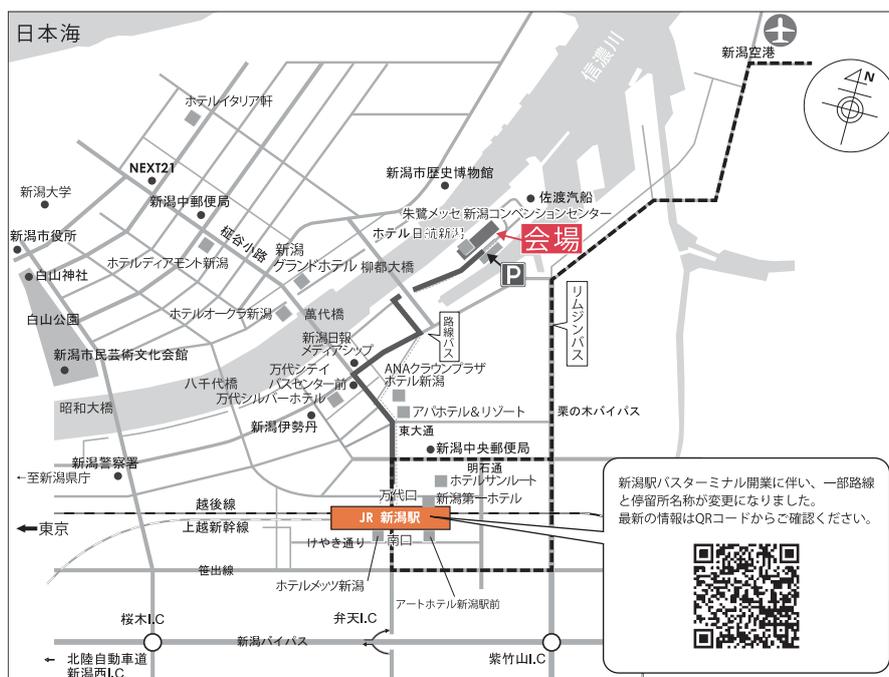
会 期：2026年3月19日(木)～21日(土)  
 会 場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター  
 〒950-0078 新潟市中央区万代島6-1  
 テー マ：「災害を科学する ～経験を科学に 新潟&熊本から発信」



学術集会HP・QRコード

会 長 高橋 昌 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 災害医学・医療人育成分野 特任教授)  
 副 会 長 笠岡 俊志 (熊本大学病院 災害医療教育研究センター センター長・教授)  
 堂前 洋一郎 (一般社団法人新潟県医師会 会長)  
 塚田 芳久 (新潟県厚生農業協同組合連合会 代表理事理事長)  
 事務局長 伊藤 宏保 (新潟大学 未来社会共創ラボ)  
 中込 悠 (新潟大学医学部災害医療教育センター 北越地域医療人養成センター新潟分室)  
 熊本事務局長 内藤 久貴 (熊本県庁)  
 馬渡 博志 (熊本大学病院 災害医療教育研究センター)  
 H P <https://shinsen-mc.co.jp/jadm31/>

## ■交通のご案内



<http://www.jrniigata.co.jp/>

## ■会長講演・特別講演・教育講演

\*2026年1月下旬時点の情報です。最新情報は学術集会HPをご確認ください。

### 第1日目 2026年3月19日木曜日

#### 第1会場 (4F マリンホール)

##### 9:00～10:00 教育講演1

『災害医学研究 学会発表を良質な論文に育てるためのポイント』

七戸 康夫 (国立病院機構北海道医療センター救急科)

##### 15:00～16:00 特別企画1

『(新潟大学企画) 産学連携で取り組む災害医療DXー新潟大学の取り組み』

#### 第2会場 (2F スノーホールA)

##### 9:00～10:00 教育講演2

『新潟大災害・復興研×東北大災害研合同教育セッション「災害医療のために災害を理解する 災害科学概論」』

##### 14:00～15:30 特別企画2

『(衛生学会との合同企画) 衛生学×災害医学でひらく健康危機管理キャリア～学会横断で考える人材育成の未来～』

##### 16:00～17:30 特別企画3

『(防災学術連携体共同企画) 災害を科学する～地震研究の最先端～』

##### 17:45～18:45 共通講習 (医療安全) 教育講演3

『根本原因分析法 (RCA) を災害医療の課題解決に応用しよう!』

高橋 昌 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 災害医学・医療人育成分野)

#### 第3会場 (2F スノーホールB)

##### 9:00～10:00 教育講演4

『平時と災害時のマネジメント比較～CSCATTTを経営学的に読み解く』

築部 卓郎 (神戸赤十字病院)

##### 15:00～16:00 特別企画4

『(緊急報告) 青森県東方沖地震における遠隔地災害拠点病院の一部避難の判断過程ー異なる立場からみた判断と地域特性の共有ー』

#### 第5会場 (3F 中会議室301)

##### 9:00～9:30 特別企画5

『(国際委員会企画) 日本の国際医療支援40年の歩みとこれから』

##### 18:20～18:50 特別企画6

『(国際委員会企画) クロージングセッション』

#### 第7会場 (1F 展示ホール)

##### 15:00～16:30 特別企画7

『(学会主導研究) 成果報告会』

##### 16:50～18:20 特別企画8

『災害対応の壁を越える思考法: 決め打ちと臨機対応の統合による新たなアプローチ』  
中島 康 (東京都立病院機構 法人本部)  
佐々木 宏之 (東北大学災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野)

### 第2日目 2026年3月20日 金曜日

#### 第1会場 (4F マリンホール)

##### 9:00～10:00 教育講演5

『本人主体のPHR (パーソナルヘルスレコード) で実現する災害医療DX』

石見 拓 (京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 予防医学学分野)

『災害時要医療的配慮者の情報管理ー災害時に活用できるPHRシステム“PHReD”』

高橋 昌 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 災害医学・医療人育成分野)

##### 10:10～11:40 特別企画9

『(新潟県医師会企画) 新潟県の災害における保健医療活動～被災地医師会、DMAT、行政の連携～』

##### 13:00～13:45 会長講演

『災害を科学する～経験を科学に』

高橋 昌 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 災害医学・医療人育成分野)

##### 15:00～16:00 教育講演6

『介護医療都市と能登半島地震』

中橋 毅 (穴水総合病院)

#### 第2会場 (2F スノーホールA)

##### 9:00～10:00 教育講演7

『新潟県中越地震からの教訓～DiaMATの創設に向けて』

八幡 和明 (長岡中央総合病院 糖尿病センター)

15:00～16:00 **教育講演8**  
『世界初の日本酒学 (Sakeology)』  
平田 大 (新潟大学)

**第3会場 (2F スノーホールB)**

16:40～17:40 **教育講演9**  
『イノベーションを生み出す人材と組織：  
忍者 (起承) と武士 (転結) の融合が創り  
出す「起承転結」の現場対応力～災害医療  
を動かすヒント～』  
竹林 一 (大阪大学フォーサイト株式会社  
エヴァンジェリスト)

**第4会場 (2F 中会議室201)**

15:00～16:00 **教育講演10**  
『災害時の要支援者に対する口腔ケアと食  
支援』  
井上 誠 (新潟大学大学院医歯学総合研究  
科 摂食嚥下リハビリテーション学分野)

**第5会場 (3F 中会議室301)**

7:50～8:50 **教育講演11**  
『社会医学系専門医「指導医講習会」』  
高橋 昌 (新潟大学大学院医歯学総合研究  
科 災害医学・医療人育成分野)  
加納秀記 (愛知医科大学病院救急診療部)

15:00～16:00 **教育講演12**  
『災害医療現場に必要となるリーダーシッ  
プ・マネジメントを考える』  
齊藤 裕之 (山口大学医学部附属病院 総  
合診療部)  
吉田 暁 (新潟市民病院 救急科)

**第6会場 (3F 中会議室302)**

15:00～16:00 **特別企画10**  
『(緊急報告) ミャンマー連邦共和国地震被  
害における国際緊急援助隊医療チームの活  
動について』

16:40～17:40 **共通講習 (感染症) 教育講演13**  
『感染症アウトブレイク・パンデミックの  
対処と課題～公衆衛生倫理と人権問題～』  
阿南 英明 (地方独立行政法人神奈川県立  
病院機構)

**第7会場 (1F 展示ホール)**

10:35～11:35 **特別企画11**  
『(新潟大学企画) 新潟からの発信！ 一企  
業の取り組み～』

**第9会場 (1F 展示ホール)**

10:10～11:40 **特別企画12**  
『(熊本大学企画) (語り部) 熊本からの発  
信～熊本地震、南阿蘇～』

**第3日目 2026年3月21日 土曜日**

**第1会場 (4F マリンホール)**

9:10～10:10 **共通講習 (医療倫理) 教育講演14**  
『仏教思想から考える死生観と苦の定義』  
松波 龍源 (実験寺院 寶幢寺)

**第3会場 (2F スノーホールB)**

9:10～10:10 **特別企画13**  
『(緊急報告) スリランカ民主社会主義共和  
国サイクロン被害における国際緊急援助隊  
医療チームの活動について』

**第4会場 (2F 中会議室201)**

9:50～10:50 **教育講演15**  
『VUCA (変動性、不確実性、複雑性、曖  
昧性) の時代のキャリアと志を考える』  
田久保 善彦 (グロービス経営大学院/藤  
田医科大学)

**第5会場 (3F 中会議室301)**

14:20～15:20 **特別企画14**  
『災害対応思考の理論と実践：OODA ルー  
プで読み解く決め打ちと臨機対応の相補性』  
中島 康 (東京都立病院機構 法人本部)  
佐々木 宏之 (東北大学災害科学国際研究  
所 災害医療国際協力学分野)

15:30～17:00 **特別企画15**

『DMAS企画 第13回学生フォーラム 座  
談会「CBRNE (複合) 災害における多職  
種連携』

## ■ 「学会を科学する」新しい取り組み

第31回日本災害医学会では、学術集会の将来像を見据えて、学会を科学する新しい取り組みを実施します。

### (1) ポスターセッションを科学する

3日間も掲示してあるポスター演題のディスカッションを数分間の発表時間だけで終わらせるのは勿体無い！という考えから、3日間の会期を通じて各発表演題専用の「チャット」を活用した全員参加型双方向性ポスターセッションを実施します。

各ポスターにQRコードを割り当て掲示します。スマートフォンからQRコードを読み取ると、その演題専用の「チャット」にアクセスできます。ポスターをご覧になった方は、演題に対する質問や感想、ご自身の意見などのコメントを、3日間の会期中いつでも書き込むことができます。演者は、自身の発表時間以外でも、チャットに書き込まれた質問やコメントを読むことができ、質問への回答やコメントを書き込むことができます。座長もチャット上の質問や、コメントを見ながら、発表時間のディスカッションを進行することができます。

### (2) 教育講演を科学する

グラフィックレコーディング（グラレコ）は会議やプレゼンテーションの内容を文字やイラストなどで可視化する手法です。「この講演聞きたかった」という声をよく耳にしますので、今回は教育講演などいくつかの企画を、発表スライドと発表音声をもとにグラレコAI技術を活用して、1枚のポスターにまとめて、会場内のデジタルサイネージで公開します。

現在のAI技術では、出来上がったポスターはもしかしたら、演者の発表の意図と全然違っている（誤っている）かもしれませんので、その点をご容赦ください。さっき話していた講演が、もう1枚のポスターでまとめられている、というグラレコ技術。今回は「将来、学術集会はこんなふうになるかも」というグラレコを活用した学術集会の未来へ向けた科学実験としてお楽しみください。

### (3) 日本酒を科学する

今回は、日本一の酒蔵数を誇る新潟県、そして世界初の日本酒学（Sakeology）を展開する新潟大学が企画する学術集会らしく、日本酒学の教育講演や、100銘柄以上の試飲など、日本酒にこだわった企画、おもてなしをたくさんご用意しています。会場では朝から試飲ができます。試飲の際には首から下げた「限定おちょこストラップ」が大活躍します。ぜひ、酒どころ新潟で、災害と日本酒を科学してください！



【サンプル】60分の講演をグラレコ技術でAIがポスターにまとめて見ると、こんな感じに仕上がります！

日程表

1日目 3月19日(木)

社会医学系分野に関する講習
講習: 共通講習 (医療倫理)
講習: 共通講習 (感染症)
講習: 共通講習 (医療安全)

Table with columns for time slots (7:00-19:00) and room numbers (4F to 3F). Each cell contains event titles, speakers, and room details. Includes a legend for event types and a sidebar with social media icons.

19:25~20:45 全員懇話会 会場: 朱鷺メッセ 1F 展示ホール



3日 3月21日 (土)

社会医学系分野に関する講習  
 講：指導医講習会  
 選：選択受講項目 (K: 単位講習)

■: 特別企画 □: ワークショップ □: 講演 / Student Challenge / ポスターセッション  
 ■: 教育講演 □: シンポジウム □: パネルディスカッション □: ワークショップ □: ランチャオナー □: 口演 / Student Challenge / ポスターセッション

会場	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	第6会場	第7会場	第8会場	第9会場	第10会場	ポスターセッション 発表会	学芸発表 コーナー
室名	4F マリンホール	2F スノーホールA	2F スノーホールB	2F 中会議室201	3F 中会議室301	3F 中会議室302	展示ホールA1(特設)	展示ホールA2(特設)	展示ホールA3(特設)	展示ホールA4(特設)	展示ホール 306・307	3F 学芸発表 コーナー 306・307
7:00												
8:00												
9:00	共通講習 (医療倫理) [3-EL141] 教育講演 14 「私教思想から考える 死生観と若者の足跡」 演者：山岸正明 座長：松原謙雄	9:10~10:10 [3-SY10] MS10 ワークショップ 10 「災害発生時の地域連携 と新たな課題」 演者：上野孝志 座長：宮島 篤	9:10~10:10 [3-SY13] 特別企画 13 「SDG13 気候変動」を 踏まえた防災・減災の 実践的アプローチの検討」 演者：藤村 孝 座長：井上潤一	9:10~10:10 [3-W514] 14 ワークショップ 14 「災害時の避難所運営 に関する課題」 演者：松原謙雄 座長：本村友一	9:10~10:10 [3-W513] 13 ワークショップ 13 「防災・減災の 実践的アプローチの 検討」 演者：山下和也 座長：山田和功	9:10~10:10 [3-W515] 15 ワークショップ 15 「災害時の避難所運営 に関する課題」 演者：藤村 孝 座長：井上潤一	9:10~10:10 [3-O3] 3 口演 3 「災害発生時の地域 連携と新たな課題」 演者：松原謙雄 座長：山田和功	9:10~10:10 [3-O2] 2 口演 2 「災害発生時の地域 連携と新たな課題」 演者：松原謙雄 座長：山田和功	9:10~10:10 [3-O1] 1 口演 1 「災害発生時の地域 連携と新たな課題」 演者：松原謙雄 座長：山田和功	10:20~11:50 [3-PD27] 7 パネルディスカッション 27 「熊本地震から10年 - DHEATによる被災支援 活動の継承と発展」 演者：近藤久清 座長：高橋 昌	10:20~11:50 [3-PD31] 11 ワークショップ 11 「災害発生時の地域 連携と新たな課題」 演者：松原謙雄 座長：山田和功	10:20~11:50 [3-PD33] 13 ワークショップ 13 「災害発生時の地域 連携と新たな課題」 演者：松原謙雄 座長：山田和功
10:00												
11:00												
12:00												
13:00												
14:00												
15:00												
16:00												
17:00												
18:00												
19:00												

## ■第31回日本災害医学会総会・学術集会における 『社会医学系分野に関連する講習』について

社会医学系専門医・指導医の更新に必要な要件のうち、『社会医学系分野に関する講習』につきましては、本学術集会の以下のセッションが認定されております。奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

### 【社会医学系専門医（指導医）講習会】

教育講演11『社会医学系専門医（指導医）講習会』

日時：3月20日（金）7:50～8:50

会場：第5会場（3F 中会議室301）

### 【共通講習（感染症）】

教育講演13『感染症アウトブレイク・パンデミックの対処と課題～公衆衛生倫理と人権問題～』

日時：3月20日（金）16:40～17:40

会場：第6会場（3F 中会議室302）

### 【共通講習（医療倫理）】

教育講演14『仏教思想から考える死生観と苦の定義』

日時：3月21日（土）9:10～10:10

会場：第1会場（4F マリンホール）

### 【共通講習（医療安全）】

教育講演3『根本原因分析法（RCA）を災害医療の課題解決に応用しよう！』

日時：3月19日（木）17:45～18:45

会場：第2会場（2F スノーホールA）

### 【選択受講項目（K単位講習）】

対象プログラムにつきましては、P.7～9日程表をご参照ください。

### 【注意事項】

- ・学術集会時に開催されるK単位認定講習については、指導医講習会は上限1単位まで、必須受講項目（共通講習）は上限3単位まで、選択受講項目（K単位講習）は上限3単位まで、となっております。
  - ・各セッションの聴講自体に制限はございませんが、単位取得は最大7単位まで、となっております。
  - ・各受講セッション毎にQRコードの読み取りが必要です。
  - ・講演会場入口にQRコードを掲示しますので、お手元のスマートフォン、タブレットで読み込んでください。Web画面が開きますので、ネームカードに表示されている参加者毎に異なるQRコードをスマートフォンで読み込んでください。
  - ・スマートフォンで読み込むと、対象セッションと、参加者名が表示されますので登録ボタンを押してください。
  - ・受講証は、参加登録マイページからダウンロードが可能です。  
（※受講証のダウンロード期間：3月23日（月）～4月30日（木））
  - ・各セッションの回答が必要です。
  - ・スマートフォン、タブレットのご用意が出来ない方は会場スタッフへお申し付けください。
  - ・専門医・指導医更新の詳細につきましては、一般社団法人社会医学系専門医協会ホームページをご確認下さい。  
専門医更新：<http://shakai-senmon-i.umin.jp/specialist/specialist02/>  
指導医更新：<http://shakai-senmon-i.umin.jp/specialist/specialist03/>
- ※現在、社会医学系専門医協会認定の必須受講項目（共通講習）を日本専門医機構での共通講習単位としては利用することが出来ませんので、ご注意ください。

## ■第31回日本災害医学会総会・学術集会 副大会長・事務局員・プログラム 企画委員紹介

参与・顧問・実行委員として、下記の皆様にご尽力いただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。なお、査読委員のご紹介は抄録集に記載させていただいております。ご協力に感謝申し上げます。

第31回日本災害医学会総会・学術集会 会長  
高橋 昌

### 副会長（敬称略）

笠岡 俊志（熊本大学病院災害医療教育研究センターセンター長・教授）  
堂前 洋一郎（一般社団法人新潟県医師会会長）  
塚田 芳久（新潟県厚生農業協同組合連合会代表理事理事長）

### 事務局員（五十音順・敬称略）

安達 哲浩（新潟医療福祉大学）  
和泉 邦彦（藤田医科大学）  
市川 佳和（新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院）  
伊藤 宏保（新潟大学 未来社会共創ラボ）  
今井 麻奈（新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院）  
内田 彩香（熊本大学病院災害医療教育研究センター）  
内山 かつら（新潟大学医学部災害医療教育センター）  
江部 克也（新潟医療福祉大学）  
大久保 裕史（済生会三条病院）  
岡崎 英輔（新潟県立新発田病院）  
小野山 貴之（済生会新潟県央基幹病院）  
川上 一岳（新潟医療福祉大学）  
草間 恵子（長岡技術科学大学）  
熊谷 謙（新潟市民病院）  
熊木 大蔵（長岡赤十字病院）  
黒崎 祐也（長岡赤十字病院）  
小池 直人（新潟大学医歯学総合病院）  
小林 和紀（長岡赤十字病院）  
小山 明日香（新潟大学医学部災害医療教育センター  
北越地域医療人養成センター新潟分室）  
佐藤 信宏（新潟市民病院）  
嶋田 美智子（新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院）  
瀬高 佑輔（長岡赤十字病院）  
田村 麻衣子（新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院）  
内藤 久貴（熊本県庁）  
中込 悠（新潟大学医学部災害医療教育センター  
北越地域医療人養成センター新潟分室）  
仁村 明日香（新潟県立新発田病院）  
野田 賜美（熊本大学病院災害医療教育研究センター）  
長谷川 聡（新潟県立新発田病院）  
林 達彦（済生会新潟県央基幹病院）  
春川 一樹（厚生連 柏崎総合医療センター）  
馬渡 博志（熊本大学病院災害医療教育研究センター）  
宮島 衛（長岡赤十字病院）

山田 麻耶（新潟県立新発田病院）  
横尾 悠里佳（新潟大学医学部災害医療教育センター  
北越地域医療人養成センター新潟分室）  
渡辺 和子（新潟大学医学部災害医療教育センター  
北越地域医療人養成センター新潟分室）  
渡邊 晶（済生会新潟県央基幹病院）  
渡邊 勝久（十日町地域消防本部）

### プログラム企画委員（五十音順・敬称略）

井口 清太郎（新潟大学大学院医歯学総合研究科）  
石井 美恵子（国際医療福祉大学大学院災害医療分野）  
和泉 邦彦（藤田医科大学）  
卜部 厚志（新潟大学災害・復興科学研究所）  
江川 新一（東北大学 災害医療国際協力学）  
岡崎 史子（新潟大学医学部医学教育学分野）  
久保 達彦（広島大学/京都大学）  
熊谷 謙（新潟市民病院）  
小早川 義貴（国立病院機構本部 福島復興支援室）  
近藤 久禎（国立健康危機管理研究機構DMAT事務局）  
佐々木 宏之（東北大学災害科学国際研究所）  
佐藤 友子（済生会熊本病院）  
七戸 康夫（国立病院機構北海道医療センター）  
坪山（笠岡） 宜代（国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所）  
内藤 万砂文（認定NPO災害医療ACT研究所）  
中島 康（地独）東京都立病院機構 法人本部）  
中田 正明（兵庫県災害医療センター）  
西山 慶（新潟大学救急医学講座）  
長谷川 聡（新潟県立新発田病院）  
服部 希世子（熊本県有明保健所兼山鹿保健所）  
原田 奈穂子（岡山大学）  
細川 浩（医療方針木星会 山鹿温泉リハビリテーション病院）  
堀井 淳一（新潟県柏崎健康福祉部）  
堀 耕太（熊本赤十字病院）  
松園 幸雅（荒尾市立有明医療センター）  
宮島 衛（長岡赤十字病院）  
森川 精二（長野松代総合病院）  
山本 卓（新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎研究セン  
ター 腎・膠原病内科学分野）  
和田 雅樹（新潟県福祉保健部）

## ■日本災害医学会最優秀論文賞・優秀論文賞・優秀査読者賞紹介

昨年度、学会誌に掲載されました投稿から厳正な審査を行いました結果、下記の皆様に決定となりました。3月19日(木)の会員総会時に表彰式を行います。また、学会誌発展のため、査読に大変ご貢献いただきました方より1名を表彰させていただき運びとなりました。ここにご紹介申し上げますとともに、厚く御礼申し上げます。

日本災害医学会代表理事 本間 正人  
編集委員会委員長 七戸 康夫

### 〈最優秀論文賞〉

- ・山平大介 秋田大学医学部附属病院  
30巻4号 pp204-211 原著論文  
「浸水想定区域の災害拠点病院における水害対応計画策定の現状と課題」

### 〈優秀論文賞〉

- ・中村誠昌 日本赤十字看護大学附属災害救護研究所災害救護部門  
30巻1号 pp40-48 原著論文  
「原子力災害時に活動する保健医療福祉活動チームの放射線防護措置等に関する指針の提言」
- ・石橋真帆 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター  
30巻4号 pp180-187 原著論文  
「災害時のトリアージに対する市民の認識」

### 〈優秀査読者賞〉

- ・生越智文 鳥取大学医学部救急災害医学

## 日本災害医学会雑誌30巻4号

### ●原著論文

#### 災害時のトリアージに対する市民の認識

石橋 真帆<sup>1)</sup>、三羽 恵梨子<sup>2)</sup>、島田 裕平<sup>3,4)</sup>、坂井 愛理<sup>5)</sup>、富尾 淳<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup> 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター

<sup>2)</sup> 京都大学大学院文学研究科

<sup>3)</sup> 東京大学大学院法学政治学研究科

<sup>4)</sup> 国立保健医療科学院健康危機管理研究部

<sup>5)</sup> 追手門学院大学社会学部社会学科

【目的】災害時のトリアージに対する市民の認識を把握する。【方法】全国の20歳以上のウェブアンケートモニターを対象に性・年代、居住地域について均等割付した846名を抽出し、2024年8月にウェブアンケート調査を実施した。【結果】有効回答が得られた841名のうち43.8%がトリアージの意味内容を知っていると回答し、25.2%は「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した。トリアージの情報源としてはテレビドラマが56.7%で最多であった。トリアージへの認識として90.2%が「多くのけが人がいる中で、医療者がトリアージを行うことは許される」と回答し、判定ミスが生じた際の責任帰属については54.3%が「誰の責任でもない」と回答した。【結論】市民は災害時のトリアージを受容していたが、その認識基盤は脆弱な可能性がある。市民理解の内実とトリアージへの同意が内包する課題についてさらなる追究が求められる。

[https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.30.4\\_180](https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.30.4_180)

### ●原著論文

#### 大規模災害におけるNICU・GCU・新生児室での看護師対応に関する文献報告動向—第1報 災害対策の知見に関するスコアレビュー—

内藤 章子<sup>1,2)</sup>、本宮 めぐみ<sup>2)</sup>、黒川 貴幸<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> 防衛医科大学校病院看護部

<sup>2)</sup> 防衛医科大学校医学教育部看護学科

<sup>3)</sup> 防衛医科大学校医学教育部防衛医学講座

【目的】災害発生後の時間経過を踏まえ、災害により導入された新生児看護対策の気付きを明らかにするとともに、今後取り組むべき災害対策につき検討する。【方法】医中誌webで「新生児」、「災害」、「看護」により文献を検索し、スコアレビューを行った。対象文献の類似点・共通点や相違点につきコードを抽出し、カテゴリー化した。【結果】42文献をレビューし、『提言』、『マニュアル作成・改定』、『教育』のカテゴリーを抽出した。【考察・結語】多くの被災経験由来の知見が蓄積・深化

することで、想定外の事態においても参考となる『提言』につながっていた。訓練や被災体験を通じ課題を見出し、『マニュアル作成・改定』を継続することで、次の災害対策につながる。各施設の課題に応じ訓練を企画・実施し、判断能力の習得を目的とした『教育』を繰り返すことが重要である。今後、各カテゴリーにおいて急性期以降の対策に取り組むことが必要である。

[https://doi.org/10.51028/jdisatmed.30.4\\_194](https://doi.org/10.51028/jdisatmed.30.4_194)

## ●原著論文

### 浸水想定区域の災害拠点病院における水害対応計画策定の現状と課題

山平 大介<sup>1)</sup>、奥山 学<sup>1)</sup>、内海 清乃<sup>2)</sup>、石井 美恵子<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>秋田大学医学部附属病院

<sup>2)</sup>国際医療福祉大学大学院災害保健医療研究センター

<sup>3)</sup>国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健医療学専攻災害医療分野

【目的】浸水想定地域に位置する災害拠点病院の、水害による孤立を想定した病院内避難（籠城）に関する対応計画およびタイムラインの策定状況を調査し、課題を明らかにすることを目的とした。【方法】国土地理院のハザードマップを基に、浸水区域内の災害拠点病院328施設を抽出し、質問紙調査を実施した。有効回答のあった63施設を対象に、集計・分析を行った。【結果】対応計画策定済みの施設は41%、タイムライン策定済みの施設は19%であり、未策定の施設が半数以上を占めた。病院災害対策本部の設置や診療制限、患者対応に関する判断基準には施設間でばらつきがみられた。【考察】対応計画策定状況の差異には、災害リスク認識の違い、過去の被災経験、立地条件等が影響している可能性が考えられた。【結語】浸水想定地域内の災害拠点病院の多くで対応計画が未策定であり、風水害対策の標準化や策定支援を含む制度的整備が今後の課題であると考えられた。

[https://doi.org/10.51028/jdisatmed.30.4\\_204](https://doi.org/10.51028/jdisatmed.30.4_204)

## ●調査報告

### 熊本地震発生後1週間以内における被災者の心理状態—新聞記事を用いた質的記述的分析—

甲斐 彰

国立病院機構熊本医療センター

【背景】地震は発生直後から心理的側面の崩壊を及ぼすが、その期間に被災者の心理状態を調査した文献は少ない。【目的】熊本地震発生後1週間における被災者の心理状態を明らかにする。【方法】2016年4月15～22日に発行された熊本地震に関する新聞記事を質的分析した。【結果】「命が助かったことに安堵」「日常生活を喪失したことによる不安感」「非日常的な生活に対するつらさ」「体調が悪化するのではないかと不安」「身近な人の安否や健康への心配」「想像を超える被害に混乱」「地元の様子が損壊したことによる衝撃」「さらに被害が拡大する可能性への恐怖」「繰り返す揺れで心が折れて逃げ出したい気持ち」「被災者同士で支え合い、役に立ちたいという気持ち」「家族・身近な人・ボランティア・ペットに支えられ乗り越えたい気持ち」「わずかでも回復する日常に安堵」「身近な人の死に対する動揺と自責の念」の13カテゴリーが抽出された。

[https://doi.org/10.51028/jdisatmed.30.4\\_162](https://doi.org/10.51028/jdisatmed.30.4_162)

## ●調査報告

### 災害時におけるドローンの医療的活用とその課題—令和6年能登半島地震を含む実動事例からの考察

久城 正紀<sup>1,2,3,4,5)</sup>、本村 友一<sup>3,4,5,6)</sup>、山内 延貴<sup>3,6)</sup>、宇田 丞<sup>3,7)</sup>、柴田 隼人<sup>8)</sup>、江川 孝<sup>9)</sup>、市川 学<sup>3,10)</sup>、横田 勝彦<sup>3,11)</sup>、赤星 朋比古<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>福岡県済生会福岡総合病院救命救急センター

<sup>2)</sup>九州大学大学院救急医学講座高度救命・災害医学分野

<sup>3)</sup>日本医療防災技術研究所

<sup>4)</sup>日本医科大学千葉北総病院救命救急センター

<sup>5)</sup>日本医科大学救急医学教室

<sup>6)</sup>日本医科大学千葉北総病院災害対策室

<sup>7)</sup>イームズロボティクス株式会社

<sup>8)</sup>愛知医科大学災害医療研究センター

<sup>9)</sup>福岡大学薬学部救急・災害医療薬学研究室

<sup>10)</sup>芝浦工業大学システム理工学部社会システム科学研究室

<sup>11)</sup>東京電機大学研究推進社会連携センター

【目的】近年の自然災害の激甚化に伴い、災害時の医療支援の迅速化が重要視され、ドローンの医療的活用が注目されている。本研究は、2015年以降に行われた一連の実証活動および実災害対応を通じて、災害時におけるドローンの医療的活用の有効性と課題を整理し、今後の社会実装に向けた展望を検討する。【方法】2015年以降の実証活動および「令和元年房総半島台風」、「令和6年能登半島地震」における実運用事例を対象に定性的な分析を行った。【結果】ドローンは孤立地域の情報収集、交通アクセスの把握、医薬品搬送において有効性を示した。一方、実運用人材の確保、遠隔診療・薬剤授与体制の整備、運用に関する法的整備などの課題が明らかとなった。【結論】ドローンは災害医療における有効な支援手段である。今後の実装に向けては、制度整備に加え、平時からの訓練と多機関連携体制の構築により、実災害に即応可能な運用体制の整備が重要である。

[https://doi.org/10.51028/jdisatmed.30.4\\_171](https://doi.org/10.51028/jdisatmed.30.4_171)

## ● 事例報告

## 海外の被災地で大規模・高機能なField Hospitalを展開するための調査と調整

夏川 知輝<sup>1)</sup>、幅野 由樹子<sup>2)</sup>、五十嵐 豊<sup>3)</sup>、豊國 義樹<sup>4)</sup>、久保 達彦<sup>5)</sup><sup>1)</sup> 淀川キリスト教病院<sup>2)</sup> 国際協力機構<sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院<sup>4)</sup> 国立健康危機管理研究機構<sup>5)</sup> 広島大学

2023年トルコ・シリア地震におけるJapan Disaster Relief (JDR) 医療チームの活動を基に、海外被災地で大規模・高機能Field Hospital (FH) の設置・運営するための調査と調整についてロジスティックの観点から報告する。第一次隊第一陣として、トルコ南東部OğuzeliにおけるFHの設置場所選定および現地調整を実施した。安全性・医療需要・空間の3条件を満たす旧職業訓練学校の駐車場を選定し、地域の医療機関との協働体制を構築した。その結果、JDR医療チームは約2週間で1,946名を診療し、手術および入院管理を含むEMT Type 2水準の医療支援を提供した。効果的なFH展開には、本隊到着前の調査・調整チーム派遣が有用である。

[https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.30.4\\_188](https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.30.4_188)

## ● 事例報告

## 災害医療の医学部教育におけるVR動画の活用

笠岡 俊志、内藤 久貴

熊本大学病院災害医療教育研究センター

自然災害の多い日本では医学部の卒前教育において災害医療教育の重要度が増しているが、実際の災害現場で医療に関する研修や実習を行うことは困難である。今回我々は民間企業と協力して災害現場における医療を疑似体験できるvirtual reality (VR) 動画を作成し臨床実習に活用したので、その有用性について報告する。VR動画は大地震の発生により列車が脱線・転覆して多数の負傷者が発生し、大学病院から救護班が出動するというシナリオで作成した。医療チームの医師目線での活動を学ぶことが可能であり、災害現場をCGで表現し、現場の安全管理についても学べる内容とした。令和5年8月から救急部の臨床実習においてVR動画を用いた講義を行うとともに、シミュレータを用いた二次トリアージの実習を行った。実習後の学生アンケートでは学習効果が示唆される結果であり、災害医療の医学部教育におけるVR動画の活用についてさらなる検討が必要と考えられる。

[https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.30.4\\_212](https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.30.4_212)

## ● 事例報告

## 当院における病棟火災での対応と検証

加藤 真嗣<sup>1)</sup>、高橋 善明<sup>1)</sup>、彦坂 宗平<sup>1)</sup>、鈴木 孝嘉<sup>1)</sup>、高柳 勇太<sup>1)</sup>、吉野 篤人<sup>2)</sup>、渥美 生弘<sup>2)</sup><sup>1)</sup> 浜松医科大学医学部附属病院<sup>2)</sup> 浜松医科大学

病院は消防法における特定防火対象物であり、防火管理者の設置と消防計画の策定、年2回以上の消防訓練（消火・避難訓練）の実施が義務付けられている。当院でも年2回の消防訓練を実施し、災害対策本部の設置、初期消火、避難誘導などを確認していた。2023年8月、当院で病棟火災を経験した。本事案では初期消火と避難については現場レベルで訓練通り速やかに実施され、物的被害は最小限かつ人的被害は発生しなかった。しかし災害対策本部は設置されず、院内外への情報共有遅滞により複数の問題が発生していた。この事案に関し、院内および大学内で検証を行った。出火病棟での活動が円滑であった一方で、小火に終わったことで大規模火災を想定した消防訓練のような全館放送は行われず、結果として災害対策本部は設置されなかった。検証結果より、災害規模によらない本部設置に向けた消防計画の改訂、コードレッドの運用開始に繋がった。

[https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.30.4\\_217](https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.30.4_217)

## ● 体験レポート

## 薬剤師の専門性を活かしたウクライナ人道危機に対する現地での医療救援

仲里 泰太郎<sup>1,2)</sup>、河合 謙佑<sup>2)</sup>、池田 載子<sup>2)</sup>、光森 健二<sup>2)</sup>、中出 雅治<sup>3)</sup>、小林 政彦<sup>1)</sup><sup>1)</sup> 日本赤十字社大阪赤十字病院薬剤部<sup>2)</sup> 日本赤十字社大阪赤十字病院国際医療救援部<sup>3)</sup> 日本赤十字看護大学附属災害救護研究所国際医療救援部門

ウクライナ人道危機の激化に伴う国内避難民の増加により、ウジュホロド市の医療体制はひっ迫した。国際赤十字赤新月社連盟とウクライナ赤十字社はウジュホロド市にEmergency Clinic (EC) を展開し対応、筆者は薬剤師としてECの構築および業務支援を担当した。特に、医薬品の品質を保証する期限管理や保管条件の維持、患者への安全な提供を担保する運用の徹底において、薬剤師の専門性が不可欠であった。本活動は直接診療を行う形態ではなく、WHOの緊急医療チーム (EMT) 分類におけるSpecialized Care Teamの目的の1つである技術支援に合致する「支援型EMT」と言える体制を結果的に採用した点が特徴であった。これにより持続可能かつ現地に根差した医療支援が実現できた。本稿ではこの状況下で薬剤師の専門性がどのように発揮されたかを明らかにし、今後の国際医療支援活動への可能性を探る。

[https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.30.4\\_155](https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.30.4_155)

## 【編集後記】

日本災害医学会誌第30巻第4号を発刊いたしました。本年度より抄録号を除き年間4号の出版となっておりますが、会員の皆様から多くの優れたご研究結果をお送りいただき、無事に第30巻を閉じることができましたことを感謝申し上げます。

掲載論文の数はそれほど増えてはおりませんが、原著論文が増えており充実した内容となっております。これらの論文より最優秀論文賞を選定し、次回総会で発表表彰させていただきます。

またご多忙の中で査読業務をご担当いただいた査読者の皆様に感謝申し上げます。こちらでも優秀査読者賞を選定し同じく総会にて表彰させていただきます。引き続き2026年も本誌にご助力いただけますようよろしくお願い申し上げます。

編集委員長 七戸 康夫

投稿規定はこちら：[https://jadm.or.jp/contents/journal/docs/journal\\_regulations.pdf?240410](https://jadm.or.jp/contents/journal/docs/journal_regulations.pdf?240410)

投稿システムはこちら：<https://iap-jp.org/jadm/journal/login>

(学会雑誌に関するお問い合わせ先)

日本災害医学会誌 編集事務局

E-mail: [jadm-edit@je.bunken.co.jp](mailto:jadm-edit@je.bunken.co.jp)

〒162-0801 東京都新宿区山吹町332-6

パブリッシングセンター (株)国際文献社内

TEL: 03-6824-9363 / FAX: 03-5206-5332

## 事務局からのお知らせ

## ・日本災害医学会会員ページ「MyPage」ログインのお願い

日本災害医学会会員限定ページ「MyPage」のログインがまだの方におかれましては一度ログインをお試しいただき、情報の更新をお願いいたします。

日本災害医学会「MyPage」：<https://iap-jp.org/jadm/mypage/login/login>

## ○トップ画面イメージ



## ○メニュー画面イメージ



## ○主な機能

- ・会員登録情報（所属先・メールアドレスなど）の確認/変更
- ・年会費のクレジットカード決済/コンビニ決済
- ・年会費納入状況の確認、領収書の発行
- ・会員検索機能
- ・会員限定講習会
- ・\*災害医学会会員限定の講習会について参加履歴の確認が可能となります。2026年2月現在、「コーディネーションサポートチーム研修」のみ対象となります。
- ・用語集の閲覧
- ・学会誌バックナンバー（メテオ）の会員限定ID/PWの確認
- ・会員限定動画配信

## ○会員の皆様へのお願い ※特に2024年5月以前にご入会された皆様

本学会では長らく、入会登録時に性別の項目を設けておりませんでした。学会内の会員状況調査や、他団体からのダイバーシティ調査へ対応するため、性別のデータを管理する運びとなりました。ログイン後、「登録情報の変更」より性別のご登録をお願いいたします。なお、多くの会員の方が性別未登録となっておりますので、皆様必ずログインしていただき、性別について確認・登録・変更をお願いいたします。

## ○初回ログイン方法

- ①会員番号（5桁）をお手元にご用意ください。会員番号が4桁以下の場合は、冒頭に0を追加して5桁の数字にしてください。  
例：会員番号101の場合⇒00101
  - ②MyPageにアクセスしてください。  
<https://iap-jp.org/jadm/mypage/login/login>
  - ③初回はPWの取得が必要となります。MyPageトップ画面の「パスワード初期設定/再設定はこちら」よりPWの取得をお願いします。
- ※学会に登録されているメールアドレスが必要となります。

## ・2026年度会費ご納入のお願い

本学会の会計年度は1月～12月となっております。2026年度会費の振込用紙を同封しておりますので、4月30日までにご納入くださいますようお願いいたします。納入状況がご不明な場合はMyPageよりご確認いただけます。※入金状況の確定および反映には最長10営業日かかります（年末年始、GW等はさらに時間を要する場合がございます）。

## 編集後記

今回この編集後記を福島で書いている。

福島の大河である「阿武隈川」は水位が下がり、川底が容易に窺える。世界的な気候変動による干ばつがもたらす凶作が現在の大きな一因になっており、これは最早「静かな災害」と言える状況かもしれない。

反面、今回の年次総会が行われる新潟などの日本海側では記録的な大雪であり、すでに雪下ろし中の複数の事故が報道されるなど、日本列島の「アンバランス」が可視化されている。今までの本邦の災害対策は、まず「地震」というのは、日本の地学的ポジションからは正しいと思われるが、これからは気象変動による「静かな災害」にも目を向ける必要を感じるころである。

坂野 晶司

2026年3月10日発行

発行所：一般社団法人 日本災害医学会

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5

TEL: 03-6824-9396 FAX: 03-5227-8631

E-mail: [jadm-post@as.bunken.co.jp](mailto:jadm-post@as.bunken.co.jp)

WEB: <https://jadm.or.jp>